



明るく楽しく過ごすコツは、
活発なコミュニケーションでした。



 シンガポール シンガポール市
ナンヤンポリテックにて研修

保健医療学部 放射線・情報科学科2年
小林 慧さん
栃木県立大田原高等学校出身

現地の障害者施設を見学した際、利用者の方がとても明るく楽しそうにしていたのが印象的でした。スタッフの方が日頃から親身に接している成果であり、日本でもこうした風景をより多く見られるようにしたいと感じました。最初は英語が不安で積極的に話せなかったのですが、わからないなりに頑張って伝えようとするのが大切だと学びました。



日本の医療技術で
世界の国々に貢献したいです。



 ラオス ビエンチャン都
ラオス国立健康科学大学ほかで研修

小田原保健医療学部 作業療法学科2年
本田 千晴さん
岐阜県立吉城高等学校出身

ラオスの医療は想像以上に技術が高いと感じました。ただ、昔からある風習のようなものを優先させることがあることや、リハビリテーションの重要性が広く浸透していないことが気になりました。また、あらためて日本の医療レベルの高さを認識することができ、日本国内だけでなく世界の国々で貢献していきたいと、強く感じました。

世界の医療福祉について、私たちが見たこと、感じたこと。

医療水準や環境の違いを
肌で感じました。



 ベトナム ハノイ市
国立バックマイ病院にて研修

福岡保健医療学部 理学療法学科2年
三島 啓嗣さん
佐賀県立佐賀北高等学校出身

日本の医療事情と比較して細部まで学ぼうと研修に臨みました。現地では、医療機器や従事者の不足、衛生環境の問題など、日本との大きな違いを目の当たりにすることになりました。特にセラピストは不足しており、看護師が理学療法士の業務を兼務しているのが現状でした。日本人として、医療人として、世界に何ができるのかを、これから模索していこうと思います。

医療人の働き方について
考えさせられました。



 イギリス ノーフォーク州ノリッチ
イーストアングリア大学にて研修

福岡看護学部 看護学科3年
井畔 恵理さん
福岡県 九州産業大学付属九州高等学校出身

イギリスは医療現場で働く人のことがよく考えられていると感じました。たとえば、私が見学した病院には患者さんを移乗、移送させるための機械がありました。日本では、ベッドから車椅子への移乗はおもに看護師が人力で行います。看護師の負担を減らすために、ぜひ日本でも取り入れていくべきだと思いました。医療だけでなく、文化背景などを含めて見聞きできたのは良い経験となりました。

